

編集室

マスク神話と新型インフルエンザ

新型インフルエンザが5月9日に日本に上陸、5月16日には、神戸で初の国内感染が発生し、あっという間に全国に拡大している。

その最中、5月23日の朝、NHKニュースは、「埼玉県で初めて29歳男性の新型インフルエンザが確認されました。この男性は、発熱の前2日間、JR線をマスクなしで通勤し、パチンコ店にも行ったとのことです…」と報じた。これではまるでこの男性は、マスクをしていなかったから新型インフルエンザに罹ったかのような報道ぶりである。彼が手洗いやうがいをしてきたかどうかや、睡眠不足や過労はなかったか等については全く触れられていない。天下のNHKがこういった報道をする程であるから、他のマスコミも然り、あたかもマスクが新型インフルエンザ予防の切り札のごとく強調されている。その極みは、新聞各紙が第一面で報じた、国会見学の中学生一行が傍聴席で全員マスクを着用している写真の掲載である。この記事については海外のメディアで、マスク大国ニッポンの対応に驚きをもって紹介されている。

さて、そのマスクだが、はたして新型インフルエンザ予防において意義があるのだろうか。5月25日現在、全国的にマスク不足となっており、医療機関でさえ医療用マスクの確保が困難となっている。まさにマスク騒動の観を呈している。

マスクの効用として、身体に有害なウイルスを含む飛沫物である微小粒子が呼吸器から身体に侵入するのを防ぐことと、上気道内の湿度を高め、侵入したウイルスの増殖を抑えることにある。各マスクにおける粒子の透過性は、市販製品の主流である不織布製マスクでは5 μ 以上の粒子を、医療用のN95マスクでは0.3 μ 以上の

粒子を通さないとされている。患者からのインフルエンザウイルスを含む飛沫粒子は5 μ 以上であるから、不織布製マスクでも捕捉可能ではあるが、飛沫粒子が空気中で乾燥し、長期間空气中に浮遊する飛沫核になれば、その飛沫核は0.3 μ 以上であるから、不織布製マスクでは捕捉できず、捕捉するにはN95マスクが必要である。しかし、その飛沫粒子と飛沫核がマスクに付着し、その後ウイルスのみとなると、その粒子の大きさは0.1 μ 前後であり、いずれのマスクも容易に通過する。また、マスク表面のウイルスに手で触れれば接触感染となりうる。よって、マスクは新型インフルエンザ予防の切り札ではなく、正しく装着され、使用されれば、極めて限局的に一定の効果があると考えられる。

また、マスクとともに推奨されているうがいもさほど効果的ではない。喉の粘膜に付着したインフルエンザウイルスは、約10分間で粘膜細胞の中に侵入するため、外出から帰ってからのうがいでは遅すぎるのである。しかし、手洗いについては、手を介しての接触感染予防には効果的である。したがって、予防のポイントは、手洗いをこまめにすること、手で口・鼻・目など顔を触れないことが重要である。

それにしてもマスクの優れた効用は、マスク着用時には「タバコを吸えない」ということである。時あたかも5月31日は世界禁煙デー、そして5月31日～6月6日は禁煙週間である。タバコの煙の粒子は、0.01～0.5 μ であり、N95マスクを容易に通過する。

新型インフルエンザ予防には、「人ごみを避ける・手洗い励行・手で顔に触れない」を、そして、タバコ病予防には、「禁煙」を！

(松村 誠)

広島県医師会速報 2009年(平成21年)6月5日

- 発行所／社団法人 広島県医師会
〒733-8540 広島市西区観音本町一丁目1番1号 TEL.082-232-7211 FAX.082-293-3363
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail kouhou@hiroshima.med.or.jp
- 編集者／広島県医師会長 碓井 静照
- 印刷所／レタープレス株式会社
〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL.082-844-7500 FAX.082-844-7800